

お知らせ

2018シドニーカップ(G1)の結果について

4月14日(土)にオーストラリアのランドウィック競馬場で行われたシドニーカップ(G1)の結果をお知らせします。

2018年4月14日(土) ランドウィック競馬場(オーストラリア)

8R シドニーカップ【Schweppes Sydney Cup】(G1)

3歳以上 ハンデキャップ 3,200m 芝・右

賞金総額 2,000,000豪ドル 1着賞金 1,160,000豪ドル

発走時刻 日本時間 14:45 (現地時間 15:45)

着順	馬番	馬名	アルファベット()内は生産国	性	齢	負担重量	調教師	騎手	タイム・着差
1	2	フーショットザバーマン	WHO SHOT THEBARMAN (NZ)	せん	9	55.0kg	C. ウォーラー(豪)	B. シン	3.20.04
2	12	ザカダ	ZACADA (NZ)	せん	5	50.5kg	M. ベイカー&A. フォースマン(新)	D. ホランド	0.1
3	13	サーチャールズロード	SIR CHARLES ROAD (AUS)	せん	4	50.0kg	L. オサリバン&A. スコット(新)	A. アドキンス	1.1
4	8	オーヴレイ	AUVRAY (FR)	せん	7	52.0kg	R. フリードマン(豪)	G. スコフィールド	1.2
5	15	ラスクエティスピリット	LASQUETI SPIRIT (AUS)	牝	4	50.0kg	L. カーティス(豪)	J. フォード	2.4
6	17	パトリックエリン	PATRICK ERIN (NZ)	せん	6	50.0kg	C. ウォーラー(豪)	C. ニューイット	3
7	21	ドゥーカーン	DOUKHAN (IRE)	せん	9	50.0kg	K. リース(豪)	市川雄介	4.4
8	1	アルマンダン	ALMANDIN (GER)	せん	8	57.0kg	L. ハウリー(豪)	D. オリヴァー	5.4
9	4	ベンチュラストーム	VENTURA STORM (IRE)	せん	5	53.5kg	D&Bヘイズ&T. デイバーニッグ(豪)	G. ポス	8
10	7	ファイブトゥミッドナイト	FIVE TO MIDNIGHT (NZ)	せん	5	52.5kg	L. ラタ(新)	M. デイ	8.8
11	19	アドミラルジェロー	ADMIRAL JELLO (AUS)	せん	5	50.0kg	K. リース(豪)	G. バックリー	10.9
12	3	リーブラン	LIBRAN (IRE)	せん	7	54.0kg	C. ウォーラー(豪)	B. アヴドゥラ	11.1
13	9	ロードファンダンゴ	LORD FANDANGO (GER)	牡	5	51.5kg	A. アレクサンダー(豪)	C. ウィリアムズ	16.7
14	18	ペルイブセン	PERIBSEN (IRE)	牡	5	50.0kg	J. オシエア(豪)	C. ブラウン	23.5
15	16	シスモンテイン	CISMONTANE (NZ)	せん	5	50.0kg	G. ウォーターハウス&A. ポット(豪)	J. イネスJr.	27.4
16	20	オルミト	ORMITO (GER)	せん	5	50.0kg	D. ウィアー(豪)	D. イェンダル	28.3
中止	10	アロフト	ALOFT (IRE)	せん	6	51.0kg	L. ハウリー(豪)	K. マカヴォイ	
除外	6	プレストウィック	PRE STWICK (JPN)	牡	7	53.0kg	武藤 善則(日)	J. モレイラ	
取消	11	ファナティック	FANATIC (NZ)	牝	5	50.5kg	D&Bヘイズ&T. デイバーニッグ(豪)	J. マクニール	
取消	5	シングルゲイズ	SINGLE GAZE (AUS)	牝	5	53.0kg	N. オリーブ(豪)	K. オハラ	
取消	14	ガリックチーフテン	GALLIC CHIEFTAIN (FR)	牡	5	50.0kg	D. ウィアー(豪)	B. スプリグス	

※①が取消となったため、補欠馬であった②が繰り上がり出走しました。

※馬齢は主催者が発表するものを採用しています。

※現地主催者発表の競走成績は、以下のウェブサイトにてご参照いただけます。

<http://www.racingaustralia.horse/FreeFields/Acceptances.aspx?Key=2018Apr14.NSW.Royal Randwick#Race8>

武藤 善則 調教師のコメント

「こちらに来て前日までしっかり調整出来ただけに、この結果は悔しいです。」

米本 昌史 シルクレーシング代表取締役社長のコメント

「返し馬で騎手が左前に違和感を感じ、獣医師の診断により取消となりました。残念ですが、馬のためを思っただけで、こればかりは仕方ありません。ただ、開催自体は素晴らしいものですし、チャンスがあればまたチャレンジしたいです。」